

Pictet Market Flash

世界経済の減速懸念の高まりなどから、世界的な株安と円高進行

2019年8月14日、米国債券市場において景気後退の予兆とされる長短金利の逆転現象（逆イールド）が発生しました。米中貿易戦争や世界経済への懸念がくすぶっていた中、中国やドイツから弱い経済指標が発表されたことも、世界経済の先行き警戒感につながり、米国をはじめ世界的な株安となりました。また、こうしたリスク回避の動きは、為替相場でも円高の進行につながりました。

景気減速や政治混乱懸念などを背景に 米国株式市場は大幅下落

2019年8月14日の米国債券市場において、景気後退の予兆とされる長短金利の逆転現象（逆イールド）が発生しました。

2019年7月末以降、米中貿易戦争のエスカレートしていたことや世界的な景気減速懸念がくすぶっていた中で、14日に中国から発表された工業生産が約10年半ぶりの低い伸びにとどまったほか、小売売上高や固定資産投資なども事前予想を下回る内容となるなど、中国の景気動向に対する懸念が高まりました。さらに、ドイツも輸出の不振などから、4-6月期のGDPはマイナス成長に陥ったことなどの発表も重なり、世界的な景気先行きに対する警戒感が一気に高まりました。こうしたマイナス材料が重なる中で、投資家のリスク回避の動きが強まり、株式などのリスク資産が大きく売られる展開となり、世界的な株安となっています（図表1参照）。こうした14日の米国市場の動向を受けて、翌15日のアジア市場もマイナス基調となっています（8月15日午後12時時点（日本時間））。

また、為替相場についても、リスク回避の動きが強まる中で、比較的安全とされる日本円が買われる動きが強まり、円高が進行しました（図表2参照）。

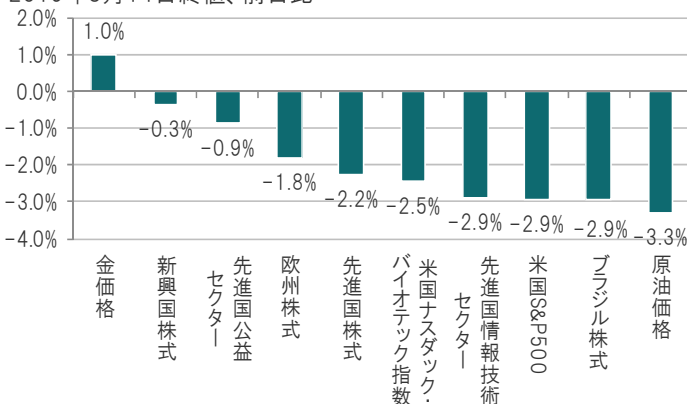
当面は値動きの大きい展開が続く可能性もあり、注視が必要

世界経済に対する懸念は高まりつつあり、市場のセンチメントは悪化しつつあります。米中通商交渉の行方や今後発表される各国からの経済指標、政策動向などに対する思惑などから、当面の世界の金融市場は値動きが大きい展開が続く可能性があります。今後発表される各国の経済指標や政策動向等には十分注視していく必要があると考えます。

※将来の市場環境の変動等により、当資料記載の内容が変更される場合があります。

図表1：主要株式指数別騰落率（現地通貨ベース）

2019年8月14日終値、前日比

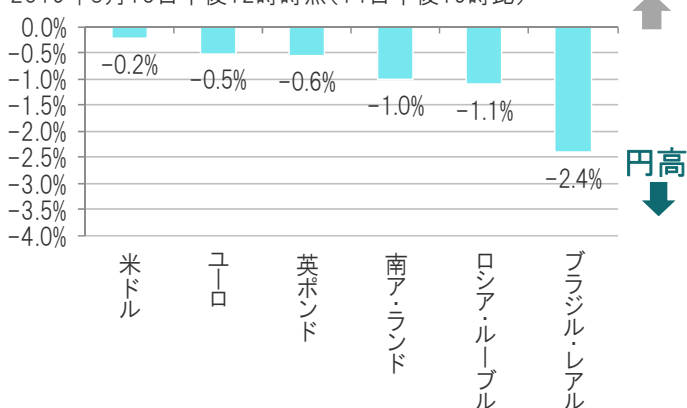


※新興国株式：MSCI新興国株価指数、欧州株式：MSCI欧州株価指数、先進国株：MSCI世界株価指数、先進国公益セクター：MSCI世界公益セクター指数、先進国情報技術セクター：MSCI世界情報技術セクター指数、ブラジル株式：ボベスパ指数、原油価格：WTI原油先物、金価格：ロンドン・ゴールド・マーケットフィキシングLtd-LBMA PMフィキシング価格/USD

出所：ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

図表2：主要通貨の対円レート騰落率

2019年8月15日午後12時時点（14日午後19時比）



出所：ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

記載のデータは、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

※MSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。